

“わたしのまち”

新キャラクター「そめぶくちゃん」(右から2番目)など  
新庁舎の見学会には区のPRキャラクターもお出迎え

# 豊島区

## 開かれた新庁舎をめざして

### 豊島区新庁舎が5月7日オープン

平成27年5月7日、豊島区新庁舎が開庁しました。  
日本初の高層マンション一体型となる新庁舎は、これまでの旧庁舎地を資産活用することで新たに区民負担を発生させない点が注目され、多くの報道機関でも取り上げられています。  
新庁舎にはさまざまな見どころがたくさんあります。  
今回は、そうした新庁舎の魅力を、便利、安心、やさしい、楽しい、の4つの視点で紹介します。

## 便利、安心な新庁舎

区では、旧庁舎の老朽化が進んだことから新庁舎を建設することを決め、庁舎を利用する人の利便性や庁舎機能の充実など、新庁舎建設に向けた検討を行ってきました。新庁舎建設にあたって、区では先端技術やIT機能を駆使し、安全性や機能の充実、快適性や業務効率性に優れた庁舎をめざしてきました。そして、今回完成した新庁舎では今まで以上に区民の方が利用しやすい親しみを持てるよう、さまざまな工夫が盛り込まれています。

### 便利 345日開庁の窓口サービス

区では、これまでも休日窓口を開設し、住民基本台帳事務を中心に34の業

務を取り扱い、区民の利便性を高めてきました。そして、新庁舎での業務開始を契機に、23区初となる土日を含む年間345日の通年開庁(年末年始・祝日を除く)を実施しています。3階の総合窓口課と4階の福祉総合フロアで、いずれも平日の約8割にあたる業務を取り扱っています。

3階には、出生や婚姻、転入や転居などに伴い今まで複数の課への届け出が必要なものを1か所で取り扱う総合窓口課をはじめ、税務課、国民健康保険課、高齢者医療年金課がワンフロアに設置されています。

ワンフロアを広く確保し、区民利用が多い申請や届け出の窓口を集約する



1階のアトリウムから9階までエコヴォイド  
(自然換気、自然採光)を採用



ワンフロアで効率的に用件を済ませることが  
できる便利な総合窓口を実現

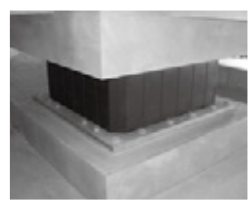
とともに、ITを積極活用し、効率的に用件を済ませることができ、便利な総合窓口を実現しました。

4階は高齢者・障害者福祉、生活支援、区民相談、子育てに関する課をワンフロアに配置し、さまざまな相談や手続きにおいて連携して対応できる窓口となっています。

このように、来庁者の9割が訪れる3階と4階の新たな窓口サービスの実



新庁舎内には災害対策センターを設置。災害時には災害対策本部となる



最新の免震装置を採用し災害に強い庁舎となっている

現により区民の利便性が格段に高まりました。

電話による問い合わせも、午前8時から午後7時まで年中無休で対応するコールセンターを開設しました。代表電話で一般的な質問などの問い合わせにも対応できるようになったほか、電子メールやFAXでも質問などの問い合わせを受け付けています。土日も開いている区役所として、区民がいつでも利用できる便利な場所となりました。

**安心**

**先端技術を駆使した災害対策**

2011年3月11日の東日本大震災発生時、巨大ターミナル駅である池袋



緑豊かな、10階の屋上庭園「豊島の森」。  
かつての豊島区の自然を再現した

駅では、多くの帰宅困難者が駅周辺に滞留しました。

今後、首都直下地震などの大災害が発生した場合、区内にはJRや私鉄の駅、いくつもの幹線道路が横断するほか、区の面積の約40%を占める木造住宅密集地域などを抱える豊島区は、刻一刻と変わる区内の状況を迅速に把握する必要があります。

そこで、総合的に区の防災力を高め、状況把握を的確に行うために、新庁舎には災害対策センターを設置し、区内全域の状況を確認できるように主要駅や幹線道路、避難所など51か所に防災カメラを配備しました。

主要駅や主要道路周辺に設置する防災カメラは、状況の異常を自動検知し災害対策本部へ通知する、世界初とな

**豊島区と「ふくろう」コレクション**

区内にある、子育ての神さまとして知られる雑司が谷の鬼子母神では、江戸時代から「すずきみみずく」が郷土玩具として生まれ、現在も「すずきみみずく保存会」によって受け継がれるなど、以前から区とふくろうとの縁があります。また、池袋と「ふくろう」の語呂が良いことや、区の形がふくろうが羽を広げているような形をしていることから、ふくろうは区のイメージと重ねられてきました。区立南池袋小学校の一室には「豊島ふくろう・みみずく資料館」が開設されています。世界中のふくろうに関する資料収集家でもある、東大名誉教授の飯野徹雄氏が所蔵する膨

大なふくろうコレクションのうちのおよそ4000点、その他拓殖大学元教授の松浦千誉氏からもコレクションの寄贈を受け、全部で13,253点におよぶ日本最大規模の収蔵数を誇っています。回廊美術館ではその中から、石・木・ガラス製の多彩なふくろうの置物や、彫刻、玩具など、世界各国の珍しいふくろうやみみずくのコレクションを展示しています。



る群衆行動解析システムを導入しています。このように、素早く正確に区内の被害を把握できれば、災害対策センターに設置される災害対策本部の迅速で適切な初動対応につながることができ、また、新庁舎には最新の免震装置や100年以上の耐久性をもつ超高強度コンクリートを導入するなど、災害に強い庁舎となっています。

3階から9階までの庁舎の廊下に開設された「回廊美術館」。  
「アートオリンピック2015」も開催される



また、建物は樹木の木の葉のように  
多様な機能をもつ「エコヴェール」で  
覆い、庁舎10階には屋上庭園「豊島の  
自然採光と自然換気を可能とする「エ  
コヴォイド」と名付けられた吹き抜け  
空間が設けられています。

やさしい

環境にやさしい緑豊かな庁舎

区では「環境都市づくり」を掲げ、  
これまでもさまざまな環境対策を行っ  
ていますが、その象徴となる新庁舎に  
は最先端の環境対策が導入されていま  
す。

やさしい、楽しい新庁舎

楽しい

庁舎全体がミュージアムに

森」を、また、4階・6階・8階の庁  
舎南側にはグリーンテラスを設置する  
など、区民に親しまれるような緑豊か  
な環境を作っています。  
そのほかにも、自然採光、エコ照明、  
雨水利用による水循環システム、地域  
冷暖房システムなど環境技術を積極的  
に取り入れ、同様の建物に比べ、庁舎  
部分でCO2排出量を30%以上抑える  
ことができる、環境にやさしい庁舎を  
実現しました。

新庁舎の建築計画が進む中、緑豊か  
な環境とともに庁舎そのものが「ま  
ち」であるかのように、区では気軽に  
区民が集う憩いの場所となるような庁  
舎をめざしてきました。  
中でも、豊島の豊かな自然や歴史資  
産、文化などをより多くの人に紹介し、  
一緒に楽しめるように考えられたのが  
庁舎全体を美術館・博物館に見立てた  
「新庁舎まるごとミュージアム」です。  
屋上庭園「豊島の森」はかつての豊  
島区の自然を再現し、次世代に守りつ  
なげていこうと作られています。「豊

これからの新庁舎  
季節のうつろい

新庁舎では、そのほかにもキ  
ッズコーナーや複数の授乳室な  
ど子育て世代にやさしい環境整  
備がされているなど、区民が親  
しみやすいようさまざまな部分  
に配慮をしています。

5月7日の開庁以降、土日も  
多くの人々が来庁しています。こ  
れからは季節に応じて、緑豊か  
な姿や紅葉した姿など新庁舎の  
新たな姿が見られます。そして、  
季節を感じられる庁舎の姿も区  
民にとって新庁舎を身近に感じ  
るひとつになりそうです。



島の森」やグリーンテラスは、自然を  
体感できる場としてだけでなく、環境  
教育の場としても活用が可能です。  
3階から9階までの庁舎の廊下には  
「回廊美術館」を開設しました。区ゆ  
かりの美術・工芸品や子どもたちの作  
品などが展示されているほか、日本最  
大規模となるふくろうコレクションの  
展示など、来庁者が各階の廊下を巡り  
楽しめるようになっていきます。  
また、絵画作品や古地図などの郷土  
資料をデジタル化して、タッチパネル

アートオリンピック(国際公募展)とは

アートオリンピックは国内外から作品を公募する世界規模の公募美術展で2年に1度開催され  
ます。対象は世間から権威づけられた美術家ではなく、公募展を通じて無名の才能あるアー  
ティストを発掘し、その活動を支援することを目的に開催されるものです。

アートオリンピック開催事務局は、  
区が国際アート・カルチャー都市  
を目指していることや、新庁舎が  
全体をミュージアムに見立てたコ  
ンセプトを持っていること、ミ  
ュージアムの空間を区民に近づける  
という考え方を持っていることに  
賛同し、回廊美術館でのアートオ  
リンピア開催に至りました。

の簡単な操作で、鑑賞できる「豊島区  
ナビ」が設置されています。6月には、  
世界規模の公募美術展「アートオリ  
ンピア2015」の第1回大会の開催な  
どが予定されています。  
今後も、区民に身近な、楽しめるミ  
ュージアムにしていきたいと思います。

